HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」61号
Issue Date	1983-11-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66603
Type	journal
File Information	yuin61.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡陰

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 61　Nov. 1983

本は　いつ　失われるか

―― 個人的な体験 ――

教養分館長　高　田　誠　二

物騒な題を掲げたが，副題に明示したとおり，自分ひとりの経験を話の種にするまでであって，他人さまの（特に，図書館の仲間の皆さんの）胸に釘を打つ気は全くない。

私が生まれ育った家には，かなりの量の本があった。明治気質の行政役人だった祖父の蔵書（政経，日本史を中心に，詩文などの漢籍を含む）と，大正気質の技術役人だった父の蔵書（洋書主体の工学書のほか円本の類におよぶ）その他である。貧乏士族がいささか刻苦して近代日本の中流の上あたりにたどりついた図と考えていただけばよい。

三代目の次男であった私は，ごく自然に「本好き」の軟弱少年になった。花のパリへ音楽の勉強にでも出かければ，まさに図式どおりの三代目の栄誉をにない得たのかもしれないが，大戦をはさむ十年間に父・母・祖父・兄・姉が相次いで病没してしまったから，パリどころではなくなった。本などは，真先に処分の対象にあげられる。和とじの八犬伝や書架つきブリタニカは，たちまちのうちに生計費，医療費に変えられたのである。

さて，近代科学の歴史を専攻している今の私にとって，祖父の史書，父の工学書はもとよりブリタニカもまた重要な研究素材となるはずであって，処分されたこれらの本への愛惜の念は，薄まるどころか，深くなるばかりである。しかし，当時のわが家は，それを保存する能力をそう失していた。

なぜ，そう失したか――残された次男坊のずぼらのせいだとは，どなたもおっしゃるまい。悲劇の張本人は，病気と戦争との複合効果であったのだから。

それはそれとして，私は本の保存ということに深く心をひかれるようになった。親戚や知人の家の疎開・転居・改築などの機会に，放棄されかけていた本の中から珍品を抽出して公共のライブラリーに届けたこともある。勤務先の研究所が筑波の新都市へ移ることになったとき，建設計画を担当していた私は，新館の図書室に電動書架をたっぷり導入する喜びを味わった。その地では，広い宿舎での単身生活を余儀なくされたが，書棚をゆったり並べる楽しみは格別だった。

しかし，その楽しみもつかの間に果て，当地へ転じてからの小寓居の本棚はふたたび二重構造になった。――つまり，一列目のをどけてからでないと奥の本を取り出すことができない状態にもどったのである。

詩の一節を借りれば，個人あるいは家庭の蔵書の‘命は短くて’，本好き人間にとっては‘苦しいことのみ多’いかのようである。そこに光明を与える方策として，公共機関との提携ということが時おり話題になる。現に日本物理学会では，物故された会員の蔵書や手稿の調査が進められ，貴重な物件の所在が明らかにされた。けれども，それらを集積保管することは，財務(具体的には，床面積と専門家 archivist の確保)の点で，一学会の能力をはるかに越える。学会誌で会員の訃報を見るたびに，その方の蔵書の運命を思わざるを得ない。

公共図書館について言えば，焚書坑儒の世が再来しない限り，その蔵書の安全は保証されるだろう。だが，時おりその書庫に入らせてもらって，部屋の広さと蔵書増加の速さの両方に圧倒されると，ふと恐しくなる——狭い日本は書物で埋められてしまうのではないか，と。近ごろ図書館や学会でのマイクロフィルム，マイクロフィッシュの利用が増してきて，この恐怖はいくらか緩和されつつある。わが家の蔵書盛衰年表のひとこまに‘マイクロ方式導入’と書く名誉をかちとりたいと，この三代目ははいま思案し始めたところである。

退任によせて

淡々たる四年

文学部教授 塩谷 饒

はからずも図書館の管理責任を負うようになり，満四年が経過してその義務からまぬがれることになった。この期間は大学に入った新入生が卒業するまでに当るのだから，さぞかし色々な経験を重ねただろうと言われて見ると，実はそれほど特別なことはいっこうに思い浮んでこないのである。平凡に，淡々に，そして健康に過せたことはきわめて感謝すべきだと思う次第である。全学に関係のあるかなり大きな組織であって，当面の課題はゆるがせにできないことは事実であったが，とくに気負うわけでもなく，エネルギーを消耗しないですんだのにはむろんわけがある。第一は館員の諸君となじみになって毎日を送ったからである。同じところに勤務しながらろくに口をきかぬばかりか，挨拶もしないで過ぎるというのは私の性に合わないことである。

この点，地金を出させてもらっていたから，自分に割りあてられた部屋で孤独な思いをかこつ必要はまったくなかったと言えよう。

つぎに私は館長なるものの職責を封建時代の大名のようなものだと割り切っていたからである。つまり，図書館には部課長制がしかれているが，いわば家老とか奉行のような人々で，その配下には各々の仕事を一丸となって処理しようと心構えた連中が控えている。館長はこれらの人々の仕事をよく注目していればよいのであって，本の買い方や整理の仕方まで一々口だすようなことはいらざるおせっかいなのである。ただし，大学全体や文部省等の前に出たときは，中がどんな具合になっているかの説明や申し開きできなければ改易になったり，禄高が減らされるというようなことになろう。手前勝手なりくつのようだが，借りものとはちがう私自身の心得の条であった。

私の恩師で前図書館情報大学学長の松田智雄先生はかつて，「国立大学の図書館は色男のようなものだ」と公言されたが，その意味は，「誰にも注目される存在だが実は金と力はないのだ」ということであろう。きわめて視野の広い，そして謹厳な基督者たる先生の大胆な御言葉

もまた私の肝に銘じていた。自らの予算ももたぬまま運営にあたる以上，強力な発言はできないと言えようが，やはり図書館は大学のシンボルでもある。そしてよい図書館は建物が立派で蔵書が多ければよいのではなく，学内に本当に図書を愛してこれを熟読する精神にあふれていることが本すじであるのは昔もいまも変らないのではないかと思っている。ともあれ，どうやら懸案の増築も始まったが，工事の音を研究室で耳にしながら，ユーザーとしてその無事落成を祈りながら筆をとった始末である。

◆ 会　　議

第112回　図書館委員会

<と　き　　昭和58年5月28日（土）>
<ところ　　附属図書館会議室>

議　　題

1. 昭和57年度決算について
2. 昭和58年度予算（案）について
3. 昭和58年度図書資料（大型コレクション）の収書計画について

第113回　図書館委員会

<と　き　　昭和58年6月29日（水）>
<ところ　　附属図書館会議室>

議　　題

1. 昭和58年度予算配当案について
2. 自然科学系外国雑誌の継続購入の見直しについて

第75回　教養分館委員会

<と　き　　昭和58年7月11日（月）>
<ところ　　教養分館会議室>

議　　題

1. 昭和57年度図書費決算について
2. 昭和58年度図書費予算（案）について
3. 昭和58年度教官指定図書の選定について
4. 北海道大学附属図書館教養分館利用内規（案）について
5. そ の 他

第76回　教養分館委員会

<と　き　　昭和58年7月28日（木）>
<ところ　　教養分館会議室>

議　　題

1. 北海道大学附属図書館教養分館利用内規（案）について
2. 昭和58年度“参考図書”および“視聴覚資料”の選定について
3. そ の 他

全学図書（担当）掛長会議

<と　き　　昭和58年6月2日（木）>
<ところ　　附属図書館会議室>

議　　題

1. 会計検査院実地検査について
2. そ の 他

◎ 自然系外国雑誌検討小委員会の報告について
—学内共同利用自然科学系外国雑誌について—

このことについて，9月17日自然系外国雑誌検討小委員会委員長（歯学部教授 飯田正一）から附属図書館長あて次のとおり報告があり，同日開催の自然科学系部局の図書館委員会委員打合せ会議においてこれを了承されたので，必要な手続きを踏んで実施していくこととなった。

昭和58年9月17日

北海道大学附属図書館長
塩 谷 饒 殿

自然系外国雑誌検討小委員会
委員長 飯 田 正 一

学内共同利用自然科学系外国雑誌について（報告）

本小委員会は，さきに調査・検討を付託された標記のことについて審議を行い，その結果，別紙のとおり結論を得たので報告します。

なお，本小委員会は，その目的に沿って鋭意検討を重ねたが，1984年誌の予約時期が本年10月に迫っていることなどもあり，したがって，この報告書は，当面1984年誌についての必要な措置を原則的に取りまとめたもので，1985年誌以降については，改めて検討する必要があると考えます。

自然系外国雑誌検討小委員会報告書

1. 自然系外国雑誌検討小委員会について

本小委員会は，昭和58年6月29日開催の第113回図書館委員会における「自然科学系外国雑誌の継続購入の見直しについて」の議題に関連して，7月16日自然科学系図書館委員会が持たれ，協議の結果，次の目的をもって設置されたものである。

昭和52年度から文部省図書館設備費の外国雑誌購入費をもって継続購入してきた自然科学系外国雑誌は，その配当予算が年次の逓減によって削減され，昭和和59年度は大幅な不足額を生じることが予想される。しかも，1984年誌の予約時期との関連から早急にその取扱いについて検討し，その結果を図書館長に報告することにある。

2. 小委員会の構成および協議

1) 構 成 員

理 学 部	教 授	鈴 木 治 夫	
医 学 部	教 授	菅 野 盛 夫	
歯 学 部	教 授	飯 田 正 一	(委員長)
工 学 部	教 授	田 中 時 昭	
農 学 部	教 授	田 村 勉	
水 産 学 部	教 授	高 木 徹	
低温科学研究所	助教授	黒 田 登 志 雄	

2) 協 議

第1回会議： 昭和58年8月 2 日（火） 13:30～14:50
第2回会議： 昭和58年8月 9 日（火） 13:30～15:00
第3回会議： 昭和58年8月24日（水） 13:30～15:20
第4回会議： 昭和58年8月30日（火） 13:30～15:35
第5回会議： 昭和58年9月17日（土） 10:30～11:00

3. 審議経過

第1回会議

委員長（歯学部飯田教授）を選出し，自然科学系外国雑誌に係る文部省配当予算の削減に伴う対策について検討した。その結果，当該外国雑誌は，昭和52年第88回図書館委員会が選定したあと，55年度に一部変更し

ているが，以来全学共同利用の趣旨に沿って有効利用が図られていることから，これらの継続購入に関しては，大学全体として考えるべきであるとの意見の合意をみた。

これに関連して，現行雑誌について共同利用の面から一部見直しが必要であるとの指摘があった。

また，継続購入のための財源に関して，図書館運営費の図書購入費について検討を加え，特に学生用図書購入費については，その予算の運用と利用の実態を調査した。

第2回会議

当該雑誌の購入経費を全部局分担とした場合と自然科学系部局のみの分担とした場合の按分比例(案)について検討した。

また，自然科学系外国雑誌全体について再検討することとし，各委員は関連部局と協議のうえ，新らたに「学内共同利用雑誌リスト」を持ち寄ることとした。

ただし，「学内共同利用逐次刊行物叢書類」は，別扱いとした。

第3回会議

「学内共同利用雑誌」の選定基準について協議し，タイトルの見直しを行った。

第4回会議

学内共同利用自然科学系外国雑誌の選定，運用ならびに予算措置および執行等について検討し，これは，さしあたって1984年版外国雑誌に係る原則的措置として，本小委員会報告書を取りまとめていくこととした。

なお，1985年誌以降の措置に関して，全学共同利用をより発展的に考えていく方策を含め，改めて全学的に検討し最も望ましい形を考えていくことの必要性について意見があった。

第5回会議

本小委員会報告書（案）を審議決定した。

4. ま と め（提言）

1) 学内共同利用自然科学系外国雑誌は，北海道大学におけるコア・ジャーナルであり，各分野にわたり利用度の高い雑誌とする。これを一部購入し，配置部局を決めて備付ける。

この措置により，各部局間で重複購入の調整が図られれば一層効果的であろう。

2) 1984年版学内共同利用自然科学系外国雑誌は，別紙(1)のとおりとする。

3) 運用については，別紙(2)のとおりとする。

4) 予算措置については，この財源を学内共通経費等に求めていくこととする。

そのためには学内諸機関の承認を必要とするが，1984年誌の予約時期までにその決定をみることが困難と思われるので，当面，自然科学系部局から応分額の拠出を願い，図書館がこれを執行することについて，全学的合意を得る必要がある。

(別紙 1) **学内共同利用自然科学系外国雑誌リスト** (1984年)

(理学部配置分)

1) Fresenius' Zeitschrift fuer analytische Chemie.
2) Gene.
3) Nuclear physics.
4) Pure and applied chemistry.
5) Zeitschrift fuer Tierpsychologie.

(医学部配置分)

1) Cell and tissue research.
2) European journal of pharmacology.
3) Life sciences.
4) Neuroscience letters.

(工学部配置分)

1) Journal of organometallic chemistry.
2) IEEE transactions.

(農学部配置分)

1) Plasmid.

(水産学部配置分)

1) Analytica chimica acta.

合 計 13タイトル

別紙 (2) **学内共同利用自然科学系外国雑誌の運用について**

1. 配置場所

中央図書室に備付けることを原則とし，開架方式で閲覧に供する。

2. 貸出・閲覧

館内閲覧を原則とし，館外貸出しは行わない。ただし，受入後一定期間を経過したものについては，当該部局の運用規程によるものとする。

3. コンテンツ・シート・サービス

希望する雑誌を対象に，部局単位に1シートのみ行う。

4. 複写サービス

電話・文書による依頼にも応ずる。ただし，複写料金は，校費扱いのみとし，料金の取扱いは，「部局間複写機使用についての申合せ」によるものとする。

5. 表 示 等

当該雑誌の表紙に「学内共同利用雑誌」のラベルを貼布して区別し，「北海道大学外国雑誌購入リスト(年刊)」には，「学内共同利用雑誌」であることを表示する。

「図書業務機械化ワーキンググループ」第10回委員会概要

日 期 昭和58年7月8日
場 所 附属図書館会議室

議事に先だち人事異動に伴う新委員の紹介および全員の自己紹介があった。

なお，石川主査から「今後人事異動があっても委員の交代はできるだけ行わないこととしたい。」旨の説明があった。

1. ワーキンググループの今後の計画について

主査ならびに学術情報掛長等から次のことについて報告および説明があった。

1) 昭和59年度概算要求は58年度よりスケールアップしたものを提出したこと。

2) 昭和58年度設置された「文献情報センター」に関して，第9回委員会以降に明確になった事項について(協力ニュース3巻6号参照)

3) 昭和57年度「開発調査概要」について
(大学図書館研究 No. 22, 協力ニュース4巻1号参照) —以上石川主査—

4) 北海道大学「図書業務電算化計画」について
—計画書を作成した理由ならびに目的について—

① この計画について広く意見を求めたいこと。

② 今年度までに4カ所の地域センター(RC)が設置されているが，それらの計画の中で可成りの部分が北海道大学としても適用できると思われること。

③ 第9回委員会でも確認されたことであるが，その後の新らしいデータを盛り込んだこと。

—高砂委員(学術情報掛長)—

引き続き質議応答が交わされた。

5) 「第1回～第9回議事録」について

委員の交代があったため，現在までのワーキンググループの活動状況，経過報告にかわるものとして配布した。 —石黒委員—

次いで，以下のことを協議した。

1) 雑誌班のチーフについて

黒田委員（整理課雑誌掛長）に決定した。

2) 新委員の配属について

文・吉村委員→整理班，教育・清水委員→閲覧班，薬・桜庭委員→雑誌班

以上のとおり決定した。

3) 各班の今後のスケジュールについて

第9回委員会議事録に記載されている各班の今後のスケジュールについて確認し，できるだけ早く班別委員会を開くこととした。なお，この班別委員会についても公文書をもって開催通知をしていくこととした。

2. そ の 他

1) 道内国立大学図書館職員で構成される「図書館業務機械化開発専門委員会」では，さきに学内で実施した「図書業務機械化に関するアンケート調査」をもとに，多少質問項目等に変更を加え各大学に対しアンケート調査を実施し，現在集計中である旨報告があった。

2) 「北海道大学情報処理教育センター」の利用について，同センターより6月14日付けで許可を得たので，それぞれの班による計画に基づき利用されわい旨説明があった。

3) 「電算化スケジュール」の変更に伴う説明があった。

4) 各メーカーが実施する講習会等への参加については，「富士通」および「日本電気」を考えている説明があった。

「図書業務機械化ワーキンググループ」第11回委員会概要

期 日 昭和58年7月29日

場 所 附属図書館会議室

図書館統合システム（ILIS）について

今回は，名古屋大学附属図書館の電算化を手がけた「富士通（株）」が，その経験を踏まえて独自に開発した大学図書館向け「図書館統合システム（ILIS）」について，システム概要および各サブシステムの説明があり，活発な質疑応答，意見交換を行った。

サブシステム：(1) 図書発注/受入システム (2) 雑誌発注/受入システム (3) 目録作成システム (4) 目録検索システム (5) 閲覧システム

説明者：富士通（株）第1科学システム課 金子史世氏

第30回 国立大学図書館協議会総会

本年度の国立大学図書館協議会総会は，北海道地区が当番として，6月9日（木）から10日（金）までの2日間にわたり北海道厚生年金会館において開催された。

参加校は，本学はじめ93大学，オブザーバーとして国文学研究資料館が参加した。

参加者は，館長，事務部長，課長，事務長等220名で，文部省からは，廣田情報図書館課長，倉橋専門員，糸金大学図書館係長が列席された。総会の概要は，次のとおりである。

前日（6月8日（水）に準備理事会が行われた。

第1日目（6月9日）

1. 開 会 式
2. 議長団選出：高村（京大），林（北見工大），桑原（広大）の三氏が選出された。
3. 研究集会座長および分科会主査選出：研究集会座長は，市川（東工大），加納（室工大）の二氏が，分科会主査は，第1分科会に吉岡（東北大），大川（一橋大），第2分科会に，藤田（横国大），伊藤（新大），第3分科会に，三川（大阪大），中廣（香川大）の各氏が選出された。
4. 報告事項：①一般経過報告，②昭和57年度協議会決算報告・同監査報告，③昭和57年度岸本博士

記念基金収支決算報告・同監査報告，④各地区協議会報告，⑤調査研究班報告，⑥大学図書館国際連絡委員会報告，⑦国公私立大学図書館協力委員会報告，⑧IFLA 関連事項報告などがあった。

5. 協議事項：①理事選出，②監事選出，③調査研究班について(59年度まで継続する。)，④IFLA 国際図書館連盟）加盟について（原則的に可とし，時期等の検討は理事会に付託する。)，⑤58年度予算案について，⑥大学図書館国際連絡委員会委員の選出および国公私立大学図書館協力委員会委員の選出等

6. 国立大学図書館協議会賞受賞者表彰式：選考委員会より次の1件を受賞に決定した旨報告があって表彰された。応募区分「図書館学における研究業績」・受賞者「東京大学理学部　羽鳥浅子」・件名「数学分野の Data Base SOLID-M の作成—国際会議録・議事録について」

7. 文部省所管事項説明：①58年度国立大学図書館関係主要予算について，②重点施策について，③図書館の管理運営組織の改善について，④図書館業務の電算化について，⑤図書館サービスの向上について，⑥図書館職員の養成と人材確保について説明があった。

8. 研究集会：テーマ「学術情報システムと地域の協力体制」，研究発表 ①「メンバーライブラリーとの接続を中心として」九州大学附属図書館学術情報課長　前田正三氏，②「図書館業務電算処理システムの現状」名古屋大学附属図書館学術情報課長　関　篤氏，③「学内および地域の協力体制の取り組みについて」京都大学附属図書館整理課長　坂東瑞昭氏からそれぞれ研究発表があり，活発な討議が行われた。

第2日目（6月10日）

9. 分科会：第1分科会（運営・サービス)：①学術情報センター設置の促進方について，②学術情報センターの設置促進について，③学術情報システムの早期実現，④学術情報センターシステムにおけるニューメディアの利用，⑤国立大学図書館間の相互利用（相互貸借）の促進について，⑥相互利用促進のための一次資料伝達ネットワークの整備について，⑦ADNIS 計画の実態と最適対応策の発見，⑧大学図書館の地域社会への協力について，⑨研究集会・分科会の今後のもち方について

第2分科会（予算)：学術情報システムに対応する予算措置について，②業務機械化導入時における一時的な経費の増額について，③外国雑誌購入経費の回復，④自然系外国雑誌購入費の増額，⑤研究集会・分科会の今後のもち方について

第3分科会（人事)：①学術情報センターシステムに向けての職員の資質向上をはかるための研修機会の増加について，②図書館近代化に伴う職員の資質向上と専門職員の制度化について，③学術情報システム要員の確保および養成，④研究集会・分科会の今後のもち方について

以上の事項について活発な討議が行なわれた。

10. 全体会議：上記分科会において討議された事項について，各分科会主査からそれぞれ報告があり，引き続き討議が行われたが次のことを決定し，今後の課題とされた事項については，各地区あるいは理事会などで検討していくこととした。

① 全体の要望については「学術情報システムの実現に関する要望について」提出済であり，本日討議したことについては，改めて要望書を提出することは差し控えることとした。

② 研究集会・分科会のもち方については，明年の総会は，2つの分科会（予算人事を統合）で行うこととした。

11. その他：来年度の総会は，中国・四国地区が当番となり，愛媛大学を会場館として明年6月中旬（予定）に開催されることとなった。

以上総会の概要を報告したが，今回の総会にあたり，ご協力いただいた関係各館および学内関係者に対し謝意を表するものである。

第33回　北海道地区大学図書館協議会総会

＜と　き　　昭和58年8月19日（金)＞

＜ところ　　北星学園大学附属図書館＞

標記協議会総会は，北海道地区20大学38名が出席，慣例により当番館北星学園大学附属図書館小野寺万

寿郎館長が議長に選出され行われた。

協議事項等は，次のとおりである。

報告事項

(1) 幹事館会議報告

(2) 北海道地区大学図書館協議会運営資金昭和58年決算報告・同監査報告

(3) 第26回北海道地区大学図書館職員研究集会報告

(4) 国立大学および公立大学図書館間相互利用（共通閲覧証方式）の実施状況

(5) 学術情報システムにおける北海道地区センターとしての北海道大学の取り組み状況

(6) 各館界の動向（国・公・私立大学）

協議事項

(1) 北海道地区大学図書館職員研究集会について

(2) 第34回北海道地区大学図書館協議会総会および第27回北海道地区大学図書館職員研究集会の当番館について

総会については，旭川医科大学に，研究集会については，北海道大学に決定した。

(3) 役員館の選出について

次のとおり選出された。

常任幹事館　北海道大学

幹事館　小樽商科大学，札幌医科大学，札幌商科大学，札幌大学
旭川医科大学（当番幹事館）

監査館　北海道教育大学，藤女子大学

◆ 図書館だより

駐日ニュージーランド大使館から図書寄贈される

G・K・アンセル駐日ニュージーランド大使が，6月25日（土）当館を訪問され，その際図書41冊を寄贈された。

これらの図書は，同国の地図・事典・文学・芸術など広範囲にわたるもので，広く利用されることを期待する。

ここに，駐日ニュージーランド大使館および同大使に対し，深く感謝の意を表するものである。



附属図書館の増築工事着工について

かねて懸案であった附属図書館の増築が，関係各位のご理解とご協力のもとに実現を見ることとなった。これから工事完成までの1年間，種々ご不便をおかけすることとなるが，何分のご協力をいただくようお願いする次第である。

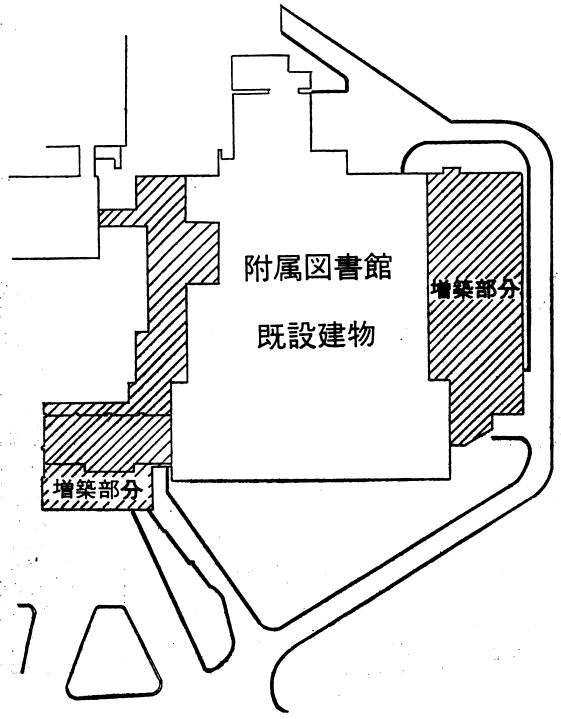
主な計画： 書庫を増築し，東側に一般書庫（電動書庫）を設置して収納能力を高め，西側には特殊資料書庫を設けて利用を促進する。これと同時に，閲覧環境の悪化を解消するために開架閲覧室および参考閲覧室の整備充実と北方資料室の整備等を行い，加えて，大学図書館が今日的課題である学術情報システム構想に対応する地域センターとしての情報管理室の設置整備を図る。

増築面積： 4,433 m²

工事期間： 昭和58年10月11日～昭和59年9月

工程概要： 昭和58年

○杭　打　設	10月25日～11月16日
○土　工　事	10月　5日～11月20日
○基礎コンクリート打設	～12月23日
○そ　の　他	～12月28日
昭和59年	
○内部改修	1月6日～3月下旬まで（新営工事休止期間）
○各階コンクリート打設	3月下旬～5月下旬まで
○内部仕上工事	6月初旬より～竣工まで（9月）
○外部仕上工事	6月中旬より～竣工まで（9月）
○屋上防水工事	6月中旬より～竣工まで（9月）



外国官報・議会資料コーナーの設置

附属図書館書庫6層北東部(入って右側の奥)に外国官報・議会資料コーナーを開設致しました。設置資料は下記の通りです。多くの方の御利用を望みます。(閲覧課)

国名	資料名	所蔵巻(年)号	出版形態	数量	所蔵区分	備考
アメリカ合衆国	1. U. S. Congress Proceedings.					
	1) Annals of Congress.	1789–1824	マイクロフィルム	10リール	書庫1層	
	2) Register of Debates in Congress.	1824–1837	〃	6リール		
	3) Congressional Globe.	1833–1873	〃	38リール		
	4) Congressional Record.	1873–1964	〃	469リール		
	5) Congressional Record (Daily ed.)	1962–1983+	図書	640冊	外国官報議事録コーナー	
	6) Indexes					
	*Sessional Indexes to the Annals of Congress.	1789–1824	〃	88冊		
	*Sessional Indexes to the Register of Debates in Congress.	1824–1837	〃			
	*Sessional Indexes to the Congressional Globe.	1833–1873	〃			
	*Sessional Indexes to the Congressional Record.	1873–1964	〃			
	(米国連邦議会議事録・会期毎索引)					
	2. CIS/Microfiche Library. Limited ed. (CIS社編米国議会資料：各委員会，小委員会記録：上院常任委員会報告書及び記録：上・下院特別出版物)	1970–1978	フィシュ		経済学部	
	3. United States Congressional Committee Prints through year 1969.					
	1) Group I: 61st–91st Congress in the U. S. Senate Library.	1911–1969	〃		〃	
	2) Group II: 65th–91st Congress, not in the U. S. Senate Library.	1917–1969	〃		〃	
	(米国議会委員会刊行物 1969年以前分)					

国名	資料名	所蔵巻年(号)	出版形態	数量	所蔵区分	備考
英国	1. Cobbett's Parliamentary History of England from the Norman Conquest in 1066 to 1803. Vol. 1-36. (英国議会議事録)	1066-1803	図書	36冊	外国官報議事録コーナー	
	2. Hansard's Parliamentary Debates.					
	1) 1st Series. Vol. 1-41.	1803-1820	〃	25冊	〃	
	2) 2nd Series. Vol. 1-25.	1820-1830	〃	25冊		
	3) 3rd Series. Vol. 1-8.	1830-1831	〃	8冊		
	4) 5th Series.					
	* House of Commons. Vol. 1-511.	1900-1953	〃	511冊		
	* House of Commons (Weekly ed.) Vol. 510-1000+	1953-1983+	〃	375冊		
	* House of Lords. Vol. 1-307. (ハンサード英国議会議事録)	1909-1970	〃	307冊		
	3. House of Commons Sessional Papers of the Eighteenth Century. Vol. 1-145. (18世紀 英国下院議会資料集)	1715-1800	〃	145冊	〃	
	4. British Parliamentary Papers, 1801-1899. (Blue Books) Irish Univ. ed. (19世紀 英国議会資料—ブルーブック)	1801-1899	〃	1,000冊	〃	教育・厚生関係は教育学部所蔵
	5. British Parliamentary Papers.					
	1) House of Commons Papers.	1931-1977	〃	708冊	〃	欠本多し
	2) Command Papers.					
	* 2nd Series. C. 37-9528.	1870-1899	〃	127冊	〃	
	* 3rd Series. Cd. 67-9237.	1900-1918	〃	75冊		
	* 4th Series. Cmd. 6-9889.	1918-1956	〃	270冊		
	* 5th Series. Cmnd. 1-7327. (英国議会資料：1)下院文書 2)指示報告書)	1956-1978	〃	448冊		
	6. Annual Catalogues of British Official and Parliamentary Publications. Vol. 1-7.	1894-1970	〃	7冊	参考閲覧室	

国名	資料名	所蔵巻年(号)	出版形態	数量	所蔵区分	備考
ドイツ(戦前)	1. Reden für die deutschen Nation 1848/1849. Stenographischer Berichte über die Verhandlungen der deutschen constituirenden Nationalversammlung zu Frankfurt am Main. (フランクフルト憲法制定国民議会議事録)	1848–1849	図書	9冊	外国官報議事録コーナー	
	2. Verhandlungen des Reichstags. Bd. 1–458 (戦前独ライヒ議会議事録)	1867–1938	フィッシュ	10,288枚	書庫1層	
	3. Reichsgesetzblatt. (戦前独ライヒ官報，第1部，第2部)	1889–1940	図書	78冊	外国官報議事録コーナー	
西ドイツ	4. Verhandlungen des deutschen Bundestages.					
	1) Stenographische Berichte. Bd. 1–123+	1949–1983+	〃	432冊	〃	
	2) Anlagen zu den Stenographische Berichte (Drucksache) Bd. 1–289+ (西独連邦議会衆議院議事録：1)速記録 2)付属文書)	1949–1983+	〃			
	5. Verhandlungen des Bundesrates.					
	1) Stenographische Berichte. Bd.11–15+	1963–1969, 1978+	〃	62冊	〃	
	2) Anlagen zu den Stenographische Berichte (Drucksache) (西独連邦議会参議院議事録：1)速記録 2)付属文書)	1963–1969, 1980+	〃			
	6. Bundesgesetzblatt.					
	1) Teil I. Jg. 1949–1983+	1949–1983+	〃	107冊	〃	
	2) Teil II. Jg. 1951–1983+ (ドイツ連邦共和国官報，第1部，第2部)	1951–1983+	〃			
東ドイツ	7. Gesetzblatt der Deutschen Demokratischen Republik.					
	1) Jahrgang 1949–1954.	1949–1954	〃	62冊	〃	
	2) Teil I. Jg. 1955–1972, 1977+	1955–1972, 1977+	〃			
	3) Teil II. Jg. 1955–1972, 1977+	1955–1972, 1977+	〃			

国名	資料名	所蔵巻年(号)	出版形態	数量	所蔵区分	備考
東ドイツ	4) Teil III. Jg. 1960–1971 (All publ.) (ドイツ民主共和国官報，第1・2・3部)	1960–1971	図書			
	8. Zentralblatt der Deutschen Demokratischen Republik. (東ドイツ官報)	1957–1970	マイクロフィルム	5リール	書庫1層	
フランス	1. Archives Parlementaires de 1787 à 1860. Recuil Complet des Débates Legislatifs et Politiques des Chamres Francaise.					
	1) 1. Série. Tome 1–82.	1787–1799	図書	224冊	外国官報議事録コーナー	1969–1976はM.F.もあり
	2) 2. Série. Tome 1–127. (フランス革命期議会議事録)	1800–1860	〃			
	2. Journal Officiel de la République Francaise: Debats Parlementaires.					
	1) Assemblée Nationale.	1962–1976, 1980+	〃	93冊	〃	
	2) Sénat. (フランス議会議事録：1)下院 2)上院)	1962–1976, 1980+	〃		〃	
	3. Journal Officiel de la République Francaise: Lois et Décrets. (フランス官報，法令・政令)	1946–1969, 1981+	〃	289冊	〃	
イタリア	1. Atti Parlamentari del Senato della Republica. Resoconti delle Sedute della 3ª–11ª Commissione Parmanente in Sede Deliberante. (イタリア上院議会議事録：第3～11常任委員会会議録)	1953–1958	図書	14冊	外国官報議事録コーナー	
インド	1. Lok Sabha Debates (The House of the People Debates). 2nd Ser.–6th Ser. (インド議会下院議事録)	1957–1978	図書	323冊	外国官報議事録コーナー	

国名	資料名	所蔵巻年(号)	出版形態	数量	所蔵区分	備考
その他の諸国						
1. オランダ	1. Resolutien der Staten-Generaal. (オランダ議会議事録)	1576–1670	図書	2冊	外国官報議事録コーナー	
2. アルバニア	1. Gezeta Zyrtare. (アルバニア官報)	1959–1968	マイクロフィルム	3リール	書庫1層	
3. ブルガリア	1. Narodno Subraine. Dnevnitsi.... (ブルガリア官報)	1879–1943	〃	49リール	〃	
4. チェコスロバキア	1. Urední List Republiky Ceskoslovensé. (チェコスロバキア官報)	1952–1961	〃	4リール	〃	
5. ハンガリー	1. Magyar Kòzlöny. A Magyar Népköztarsasag Hivatalos Laja. (ハンガリー官報)	1951–1964	〃	5リール	〃	
6. ポーランド	1. Monitor Polski. Dziennik Urzeczypospolitej Polskiej. (ポーランド官報)	1954–1970	〃	9リール	〃	
	2. Dziennik Ustaw Polskiej Rzeczypospolitej Ludowej. (ポーランド官報)	1918–1939, 1944–1967, 1978+	図書		外国官報議事録コーナー	
7. ルーマニア	1. Marea Adnunare Nationala. Buletinul Oficial. (ルーマニア官報)	1957–1967	マイクロフィルム	2リール	書庫1層	
8. ユーゴスラビア	1. Sluzbeni List. (ユーゴスラヴィア官報)	1947–1970	〃	20リール	〃	

◆ 統 計

部局別蔵書冊数

(昭和58年3月31日現在)

区分 / 部局	和書	洋書	合計	備考
附属図書館	401,674	273,418	675,092	法学部を含む
教養分館	80,490	15,219	95,709	教養部及び言語文化部を含む
文学部	73,111	102,707	175,818	
教育学部	49,753	21,446	71,199	
法学部	(50,090)	(89,593)	(139,683)	
経済学部	38,948	32,050	70,998	
理学部	44,106	121,764	165,870	
医学部	77,491	90,036	167,527	附属病院を含む
歯学部	10,393	10,292	20,685	〃
薬学部	3,880	10,923	14,803	
工学部	154,301	123,519	277,820	
農学部	161,927	96,598	258,525	附属農場及び附属演習林を含む
獣医学部	8,925	17,206	26,131	
水産学部	62,888	37,560	100,448	
教養部	(10,446) 15,855	(4,022) 8,140	(14,468) 23,995	
言語文化部	(3,236)	(5,426)	(8,662)	
大学院環境科学研究科	5,565	2,056	7,621	
低温科学研究所	5,549	12,481	18,030	
応用電気研究所	4,563	12,467	17,030	
触媒研究所	2,812	8,667	11,479	
免疫科学研究所	1,304	5,792	7,096	
スラブ研究センター	(1,937) 971	(27,103) 8,332	(29,040) 9,303	( ) 書の冊数は附属図書館に管理換分
大型計算機センター	791	816	1,607	
事務局	1,802	149	1,951	
学生部	621	97	718	
医療技術短期大学部	7,582	762	8,344	
合計	1,215,302	1,012,497	2,227,799	

昭和57年度　部局別図書・雑誌受入冊数

区分＼部局	図書							雑誌						
	和書			洋書			計	和書			洋書			計
	購入	寄贈交換	製本移管	購入	寄贈交換	製本移管		購入	寄贈交換	その他	購入	寄贈交換	その他	
附属図書館[1]	3,696	1,229	2,635	6,811	279	5,616	20,266	407	2,998	—	468	526	—	4,399
教養分館[2]	4,204	63	699	2,548	5	461	7,980	239	24	—	187	1	—	451
文学部	3,290	146	366	4,408	121	476	8,807	187	911	—	479	3	—	1,580
教育学部	3,432	270	710	641	2	205	5,260	216	459	7	189	—	1	872
法学部	(826	120	689	3,022	137	2,111	6,905)	(242	481	—	291	33	—	1,047)
経済学部	2,134	943	627	2,030	114	463	6,311	154	680	—	230	54	—	1,118
理学部	547	101	306	1,399	102	2,295	4,750	105	349	—	845	200	12	1,511
医学部[3]	1,032	131	1,050	832	35	2,333	5,413	286	384	1	757	64	—	1,492
歯学部[4]	498	4	114	163	—	465	1,244	124	123	—	204	30	—	481
薬学部	77	15	65	123	—	462	742	24	46	—	107	3	—	180
工学部	2,745	179	880	1,778	79	2,731	8,392	308	872	—	705	32	1	1,918
農学部[5]	2,486	139	1,042	834	6	1,100	5,607	394	761	18	610	181	20	1,984
獣医学部	182	6	61	196	5	295	745	31	181	—	145	147	1	505
水産学部	738	176	422	218	47	990	2,591	350	843	—	292	346	5	1,836
教養部	(282	8	15	200	—	—	505)	(40	—	—	75	—	—	115)
言語文化部	(1,649	—	193	2,282	—	357	4,481)	(27	—	—	101	—	—	128)
大学院環境科学研究科	712	1	22	332	—	149	1,216	30	81	—	145	35	—	291
低温科学研究所	64	18	78	109	11	450	730	43	248	2	89	208	1	591
応用電気研究所	92	81	88	161	75	630	1,127	226	—	—	131	—	—	357
触媒研究所	30	3	47	89	—	285	454	16	7	—	53	23	—	99
免疫科学研究所	37	—	—	50	—	285	372	12	102	—	54	—	—	168
スラブ研究センター	37	—	19	1,992	2	557	2,607	4	131	5	121	46	—	307
大型計算機センター	36	—	—	57	—	—	93	—	—	—	—	—	—	—
事務局	28	—	—	6	—	—	34	—	—	—	—	—	—	—
学生部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療技術短期大学部	933	99	653	75	59	65	1,884	74	41	—	24	—	—	139
合計	27,030	3,604	9,884	24,852	942	20,313	86,625							

備考　1) 法学部を含む。
2) 教養部及び言語文化部を含む。
3) 附属病院含む。
4) 附属病院含む。
5) 附属農場，附属演習林含む。

昭和57年度 附属図書館利用統計

閲覧室名 / 開館日数 / 利用部局等	書庫出納カウンター 館内閲覧	書庫出納カウンター 館外貸出	開架図書室 館外貸出	語学演習室	参考図書室	北方資料室	合計
	290日	290日	277日	290日	290日	290日	
文学部	318人	1,109人	2,760人	69人	1,758人	363人	
教育学部	47	128	687	52	277	41	
法学部	465	1,591	4,627	278	524	48	
経済学部	36	105	1,539	131	393	59	
理学部	19	46	2,554	2	119	44	
医学部	4	6	315	2	35	34	
歯学部	6	1	321	22	28	1	
薬学部	3	1	441	2	17	4	
工学部	17	28	1,317	4	157	103	
農学部	28	35	1,321	2	128	86	
獣医学部		5	179	4	11	3	
水産学部			2		7	10	
教養部	142	306	4,588	53	571	106	
各研究所					141	76	
医療技術短期大学部	4	2	584				
教官	160	2,736	400	167			
院生	123	3,260	1,736	245			
職員	87	252	1,467	25			
学外者	342	457	39	2	211	929	
利用者合計	1,801	10,068	24,877	1,060	4,377[3]	1,907[4]	44,090人
利用冊数	3,972	29,079	21,394	1,258巻	248[1]	1,032[2]	55,725冊 1,258巻

注 1) 国連資料, OECD 資料, EC 資料, 図書館学資料のみ (参考図書は貸出しない)
2) 館外貸出冊数 (室内利用は含まず)
3) 参考図書室については, 教官・職員・学生こみの人数
4) 北方資料室については, 教官・学生・こみの人数

昭和57年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内: 附属図書館参考調査掛を経由して学外へ依頼した件数 (国立・私立とも)

申込部局	附属図書館	法学部	文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
件数	16	305	123	32	3	5	—	2	3	—

申込部局	農学部	獣医学部	水産学部	教養部他	環境科学研究科	低温研究所	応電研究所	触媒研究所	免疫研究所	合計
件数	30	2	1	13	269	1	28	27	17	877

II. 国内： 新方式（国立大学等図書館相互における文献複写）で各部局図書掛等が受付・依頼を行った件数

部局	附属図書館	文	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受付	2,302				1,255		57	819	1,013	456	337	136	6,375
依頼	605	216	103	416	869	75	53	364	193	65	296	49	3,304

III. 国外への依頼件数（参考調査掛）495件（米・加228, 英156, 西独66, 仏13, ソ連4, その他28）

IV. 図書館間相互貸借（参考調査掛） ○他館への貸出 241件 ○他館からの借用 119件

V. 附属図書館マイクロ電子・複写業務実績（館内分を除く）

複写数／申込者	件数注)（件）	複写論文点数（点）	処理枚数・コマ数 総数	内訳 電子複写（枚）	マイクロフイルム（コマ）	マイクロフィッシュ（枚）	引伸焼付（枚）	リーダープリンター（枚）
学内者	482	849	36,474	3,434	1,446	—	1,390	30,204
学外者	3,547	5,073	63,368	60,484	1,275	—	0	1,609
合計	4,029	5,922	99,842	63,918	2,721	—	1,390	31,813

注） 件数は申込延人数と同じ。（複写不能分を含まず）

VI. 問い合わせ件数（参考調査掛）

1. 問い合わせ内容別

合計	1,530	文献所在調査 1,395	書誌調査 62	事項調査 73

2. 問い合わせ部局別

文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水	環	養	低	応	触	免	事	医短	学外	合計
31	11	48	14	160	40	18	20	194	158	19	30	12	20	23	22	21	11	43	2	633	1,530

昭和57年度 教養分館利用統計 （開館日数277日）

閲覧室等名／利用部局等	開架図書室 館外貸出		語学演習室		ビデオ視聴室	
文学部	1,290冊	793人	15巻	15人	12巻	10人
教育学部	191	115			8	8
法学部	607	360	80	74	117	83
経済学部	385	245	32	22	24	19
理学部	1,969	1,256	28	28	7	7
医学部	468	298	20	18	76	65
歯学部	166	103			8	5

閲覧室等名 / 利用部局等	開架図書室 館外貸出		語学演習室		ビデオ視聴室	
薬学部	596冊	356人	1巻	1人	21巻	19人
工学部	2,009	1,323	15	15	66	59
農学部	471	294	13	13	4	4
獣医学部	317	185	2	2	23	16
水産学部	16	7	1	1		
教養部	36,676	22,885	412	386	1,547	1,344
医療技術短期大学部	639	396	1	1	4	4
教官	4,952	495	14	13	26	24
院生	407	238	385	380	37	33
職員	877	579	70	69	11	10
学外者	13	9	3	3	18	6
合計	52,049	29,937	1,092	1,041	2,009	1,716

昭和57年度 教養分館分類別館外貸出統計

類別	0	1	2	3	4	5	6
冊数	728	3,136	342	4,561	1,866	19,404	1,419
類別	7	8	9	文庫・新書	雑誌		合計
冊数	1,335	7,133	5,234	6,627	264		52,049

◆ 研 修

第26回 北海道地区大学図書館職員研究集会

<とき 昭和58年8月5日(金)>
<ところ 小樽商科大学講義棟104教室>

標記研究集会は，当地区18大学128名が参加して次のように行われた。

○研究発表

司会 北海道工業大学 五十嵐 武義
札幌大学 下田 誠

1. オンライン情報検索
   1) 主題検索 —化学文献—
   北海道大学 冨本 寿子
   2) 書誌検索 —会議録—
   北海道大学 宇野 弘純
2. 北海道の古地図 北海道大学 秋月 俊幸
3. 札幌大学図書館・MARC システムについて
   札幌大学 佐々木 優

4. 資料研究　—女性学に関する二次文献解題について—

札幌商科大学　岡　田　煌　子

以上の研究発表に対し質疑応答が交わされ，有意義かつ，盛会裡に終了した。

なお，当番館小樽商科大学の関係者各位ならびに研究集会企画委員会委員各位の熱意と協力に対し心から謝意を表するものである。

（北海道地区大学図書館協議会常任幹事館
北海道大学附属図書館）

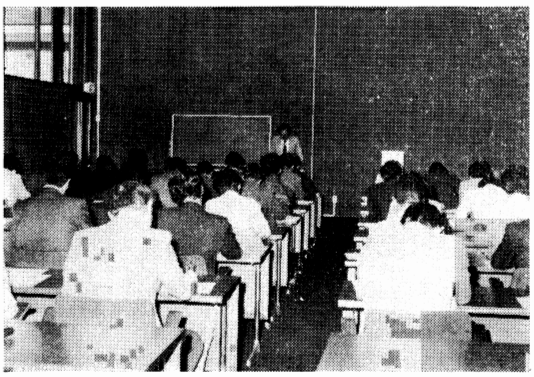
昭和58年北海道大学図書館職員講習会

標記講習会は，9月28日（水）北海道大学百年記念会館大会議室を会場として，下記日程により実施された。

これは，本学等の図書館職員に対して図書館業務の機械化に関する基礎的知識を付与し，あわせて，「学術情報センターシステム」構想に対応した地域ネットワーク構築の促進に資することを目的として，昨年に引き続き企画されたもので，当日，本学図書館職員35名，北海道教育大学，室蘭工業大学，小樽商科大学，帯広畜産大学，北見工業大学の図書館職員各1名，および旭川工業高等専門学校図書館職員1名，計41名が受講し，予定どおり終了した。

講習会日程

9:00	開会挨拶	館長　塩谷　饒
	講師紹介	事務部長　平　清二
9:15～12:00	講義	大阪大学附属図書館におけるRCシステムの開発について 筑波大学図書館部学術情報課長 門田泰典
13:00～16:00	講義	欧米における学術情報流通体制の動向 図書館情報大学教授　松村多美子
16:00～17:00	質疑応答	司会　閲覧課長　石川雅夫
	閉会挨拶	事務部長　平　清二



昭和58年度 漢籍担当職員講習会（初級）に参加して

この春，5月16～20日の5日間，京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターに於て，文部省および同センター主催の標記講習会が開かれた。この講習会は，従来，東大と京大の2会場で開催されていたが，今年からは京大だけとなった。今回，私は文学部在籍中に申込みしていただき，5月の異動後に連絡があって，図書館から参加させていただいた。

私が三年間和漢書整理に携わっていた文学部図書掛では，年間千冊余（大型叢書・雑誌を除く）の漢籍と現代中国図書を受入れている。目録規則はNCR 1965年版を用い，分類は，京都大学東方文化（現人文科学）研究所漢籍分類目録（昭18）の四部分類表を用い，DC 16版を付記する方法であった。受入れる漢籍の多くは，すでにいずれかの図書館で所蔵しているものかその影印本であったので，他館の目録を参考にしたり，稀に見当らない場合には購入された教官にお伺いしたりして整理していたが，中国の古典のことや漢籍の整理方法について勉強する必要を感じていた。講習は，漢籍の分類と整理についての丁寧な手ほどきの後，午前は講義を受け午後は線装本を手にして実習というスケジュールで進められたので，解りやすく，それまでの断片的な知識も整理された感じがした。

四部分類が，中国最初の書籍目録である漢書芸文志（後漢・紀元76～84年，678部収録）に伝えられる六略に発して，隋書経籍志（唐代・636年，6,150部収録）に於て初めて，経・史・子・集の四部の名が確立され，さらに公私の目録が編まれて後，18世紀後半，清朝の乾隆帝の命によって編まれた四庫全庫へと結実していくというふうに，中国文化・学術思想と共に発展した独自の分類としてあることや，目録の記述については，線装本の各部の呼称説明に始まって，“書”より“○○本”かが重要なこと。その他，どの範囲までを漢籍と規定するのか等，中国古典の整理をしていく上での実務上の基準となるものについての説明もあり，非常に有意義であった。

受講して，北大での現状や今後のことについて感じたことを二，三記してみたい。近年，文革後の“雨後の筍”といわれる中国出版状況の中から，多量の単行本・雑誌が受入れられているが，これら中国現代図書に，引き続き，東文研目録の分類を適用しているため，近人雑著部が今の学術研究の広がりに対応し切れていないことによる障害が出てきている。他館では和書に準じて整理している所が多いようだ。また，読みについて，同センターではすべて画数ファイルであったが，通常，検索する際の鍵となるローマナイズは，音読みしてヘボン式でファイルしている所が多いようである。しかし，中国語を日本語の音読みでファイルするのは不合理だと思うがどうであろうか。一例をあげると，「北京」は，Pekin（読みぐせをヘボン式で）Beijing（現在中国の標準語：普通話・拼音で），Peking（英語で），Peiching（LCのウェード法で），そしてHokukyo（機械的に音読みしヘボン式で）等である。和書混排の場合，同じ文字の図書が別々になるとか，LCカードとの違いなどあろうが，「中国図書が増えてきており和書との別置を考え始めている」という所も出て来ているらしい。先に同講習会に参加された高砂・藤島両氏（榆蔭38・41号）も述べられているように，和書・漢籍・現代中国図書を，今後どのような関連のもとに整理・運用していくのがよいのかを，カード目録や書架排列の問題とも考え合わせて検討することが必要だと思う。

最近の「図書館の窓」（東大図書館報・19巻3号，1983）に，北京図書館編製の印刷カードが紹介されており，東大文学部図書室ではLCマーク，国会カードと共に採用し始めたという。また，「静脩」（京大図書館報・19巻3号，1982）では東洋学文献類目の機械化の報告がされている。これらは，一昨秋，国会図書館が漢籍目録作成に着手したと聞き，担当者を訪ねた折，伺

った話からも納得のいくところであった。講習会の冒頭，将来的に全国漢籍目録を考える時，必然的に目録の標準化・均質化が計らねばならないこと，今秋には漢籍目録機械化のための講習会が予定されていることなどが話されたが，この様な動向に対しても対応できる準備を心がけていきたいと思う。 （参考調査掛　佐々木　光　子）

昭和58年度　大学図書館職員長期研修に参加して

本年度の研修は，8月4日から8月24日までの約3週間にわたって筑波研究学園都市に位置する図書館情報大学を主会場に，筑波大学附属図書館，同大学学術情報処理センターおよび東京大学大型計算機センター等9会場で開催され，全国から参加した38名（男性31名，女性7名）の研修生が，真夏の暑い日差しのもと熱心に受講した。

この研修の目的は，現今の学術情報の爆発的な増大に対する情報提供体制の整備充実の必要性から，図書館職員に対し，学術情報にかかわる諸情勢の発展，知識・技術の開発の現状について最新の知識を教授し，資質の向上を図ることにあり，その主眼は，学術情報システムの形成，特にその On-Line ネットワークについての認識を高めることにあった。

講義は大きく分けて，総論，一次資料の整備とその運用，二次資料検索システム，情報検索サービス，その他関連領域について行われた。一つひとつの講義内容について言及することは誌面の関係もあり省略するが，なかでもネットワーク形成の必要性，また，これを支える通信網の整備について各講師とも共通して強調された。これらのことは，本年4月東京大学に，学術情報センターの前身ともいえる文献情報センターが設置され，近い将来各国 MARC による書誌・所在情報の提供サービスが開始されるであろうことを考えても明らかであるように，学術情報システム構想の具体化，実現はもはや秒読み段階に入ったものと思われる。このため各大学では，このシステムに如何に対応していくか，どのような態勢で取り組んでいくかといったことについて具体的な詰めを急がなければならない状況にある。勿論わが北海道大学においても例外ではなく，現在，地区の図書館業務機械化開発専門委員会および北海道大学「図書業務機械化ワーキンググループ」等で，全国的な状況を踏え電算化のための実態調査・業務分析の実施等検討を進めている。

また，筑波大学，図書館情報大学において，情報検索サービスに関し，機械検索とマニュアル検索の両面にわたる実習があった。機械検索では，その効率性といったものをつぶさに体験し，今後一歩進めた学習・研究の必要性を改めて痛感した。マニュアル検索では，与えられた例題の大半が機械検索でも容易に情報入手が可能なものが多く，もう少し機械検索とマニュアル検索の相違を際立たせるものを体得したかったところであるが，これもやはり図書館職員としては二次資料の体系の習熟を怠ってはならないということであろうか。しかし，現在 JOIS II，あるいは DIAROG による検索が徐々に大学図書館に浸透していることもあって，情報検索のウエイトは必然的に機械検索に移行していくであろうと思われる。

施設見学は，はじめに記述した会場以外に，国文学研究資料館，日本経済新聞社，日本電信電話公社データ通信部，電子技術総合研究所，慶応大学三田図書館，高エネルギー物理学研究所の6カ所のシステムを見学した。なかでも図書館とは直接関係ないが，巨大科学で素粒子の世界を追求している高エネ研の加速器には驚嘆した。また，各施設でデータ通信網，データベースの構築（国文学データベース，NEEDS），新らしい図書館の運営等を目の当りに接することができたのは望外の喜びであった。

なお，この研修を通じて，全国各地から参加した研修生とお互いの大学図書館の実情を話し合い，親睦を深め，幾多の知見を得ることが出来たことも大きな収穫であった。

終りに，文部省情報図書館課および図書館情報大学等関係の皆様にお世話になったことを感謝し，この誌面を借りてお礼申し上げる次第である。

（教養分館整理掛　山　下　洋　一）

◇ 図書館専門員の配置について ◇

当館閲覧課に本年10月1日付を以て図書館専門員が新たに配置され，それに伴う人事が同日付で発令された。（人事往来参照）

図書館専門員は，極めて高度の専門的知識を必要とする特定の分野の事務を直接処理することとされ，当面，閲覧課に所属して学術情報システムに関する企画および連絡調整の職務を処理することとし，事務組織の強化を図ろうとするものである。

◇ 人 事 往 来 ◇

○新　館　長

東　　晃　（工学部教授）　58.10.1

○前　館　長

塩　谷　　饒　（文学部教授）　58.9.30（任期満了）

○図書館委員会委員

小　島　　豊　（大学院環境科学研究科教授）　58.5.28

田　村　　勉　（農学部教授）　58.6.1

○配　置　換

平　田　忠　夫　閲覧課図書館専門員・閲覧掛長併任（工学部総務課図書掛長）　58.10.1

逵　　昭　二　工学部総務課図書掛長（閲覧課閲覧掛長）　〃

○退　　職

江　口　優　子　（教養分館閲覧掛）　58.10.31

○採　　用

山　下　博　子　（教養分館閲覧掛）　58.11.1

「中津川俊六全集」のこと

もう旧聞に属することとなってしまったが，昨年10月「中津川俊六全集」上・下2巻が立風書房より刊行された。

中津川俊六氏とは，改めていうまでもないが，元当館事務長武田暹さんのことである。

武田さんは，以前より自作集を出す計画を持っておられたが，それを果すことなく，昭和56年10月，80歳でなくなられた。今回の全集は，武田さんの御子息晃二氏（岩手大学助教授）の御努力により実現したものである。

北大図書館勤務時代の武田さんを知る人も少なくなってしまったが，巻末の年譜によれば，武田さんの北大図書館勤務は，大正10年から同13年までと，昭和15年から同39年までの2度にわたっており，同29年から退官されるまでは事務長の職にあったことも御承知のことと思う。その時代は，終戦をはさんで，北海道大学が文科系学部を新設して新制大学として再出発した時にあたっており，武田さんのみならず，図書館員にとっても苦労の多い時代であったと推察される。武田さんは，いかにも図書館事務長と呼ぶにふさわしい風貌で私たちに接し，広く大学内の信頼をかちえていたと思う。

このたびの全集は，武田さんの執筆活動のほとんど全部を網羅したもので，新聞・雑誌等への寄稿から創作まで，大変幅広いことにあらためて驚くが，いずれも北海道文化を見すえる目の確かさを感ずる。また，晃二氏の筆による「父のこと—あとがきに代えて—」によって，武田さんの人間としてのあゆみを詳細に知ることができ，それはしばしば感動的である。私たちは，このような優れた著作を残した先輩を誇ってよいと思う。

この上下2巻の全集は，装丁も造本も誠に立派なもので，広く読まれることを願うものである。

（整理課庶務掛長　成田　稔）

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」（通巻61号）
1983年11月28日 発行　発行人　平　清　二
編集委員　佐藤繁好（長）・石川雅夫・遠藤雄作・石黒克介・平田忠夫・成田　稔・嶋崎　功
杉尾勝茂・山本幾夫・黒田泰行・庄司重陽・宇野弘純・高砂　慶・星賀　隆
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 716-2111 (2967)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560・5561